

## 1 実施概要

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から実施されています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、令和3年度は市内、小学生692名、中学生585名が参加し、5月27日に調査が行われました。調査内容は、毎年実施されている国語・算数・数学と学習意欲や生活状況等について尋ねる児童生徒質問紙調査となっています。

本市においては、学力調査の結果を活用して、児童生徒の学力を一層向上させるため、教育委員会、各関係機関、各校と連携し、「京田辺市学力向上対策会議」を開催しており、各校における教育指導の充実や学習状況の改善、教育施策の成果と課題を検証し、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、その改善に向けた取組等を進めています。

## 2 学力調査の結果概要

### 【全般的な概要】

- 小学校については、国語・算数とも高い学力水準といえますが、国語・算数ともに、特に「思考力・判断力・表現力」領域に関わる出題において課題がみられました。
- 中学校については、国語・数学とも高い学力水準といえますが、国語では特に「読む」領域において、数学では特に「数学的な見方や考え方」領域に関わる出題において課題がみられました。

### 【国語科の概要】

- 小学校では、学習指導要領の内容項目、観点すべてにおいて、平均正答率が全国平均・府平均を上回っています。しかし、目的に応じて文章と図表を結びつけて必要な情報を見つけて読むこと、また、目的を意識して中心となる語や文を関連付けて要約することに課題が見られました。
- 中学校では、学習指導要領の各領域、観点すべてにおいて、平均正答率が全国平均・府平均を上回っています。しかし、文章中のものの見方や考え方をとらえ自分の考えをもつこと、書いた文章を読み返し語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことに課題が見られました。

### 【算数科・数学科の概要】

- 小学校では、学習指導要領の内容項目、観点すべてにおいて、平均正答率が、全国・府平均を上回っており、基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力は身に付いています。しかし、速さを求める除法の式と商の示す意味を理解すること、図形を構成する要素などに着目し、構成の仕方を捉えて面積の求め方と答えを記述することに課題が見られました。また、グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもつ項目とその割合を説明することに苦手な傾向があります。
- 中学校では、学習指導要領の「資料の活用」、評価観点「数学的な技能」を除き、平均正答率が、全国・府平均を上回っており、全体的には高い学力水準といえます。一方で、「関数」領域において、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られました。また、「資料の活用」領域では、2つの分布の傾向を比べる際の相対度数の必要性和意味の理解に課題が見られ、「数学的な技能」評価観点では、括弧のある文字を用いた式の計算に弱さが見られました。

## 3 質問紙調査の結果概要

### 【生活習慣について】

小学校・中学校ともに、「朝食を毎日食べる」「就寝・起床時刻が決まっている」など、基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒の割合は高い水準を維持しています。今後も引き続き、規則正しい生活習慣の確立に向け、家庭での習慣づけをお願いいたします。

### 【学習習慣について】

全体的には、概ね家庭学習（宿題・習い事を含む）を行っており、計画を立てて取り組んでいます。特に中学校では、全国平均・府平均を約4ポイント上回っています。今後も自分で計画を立て学校の授業の予習・復習や自らの課題に向けた学習に取り組む習慣を付けていくことが大切となります。また、読解力・言語能力の育成とも深い関係がある読書に関する質問については、30分以上の読書時間の割合が小学校では全国平均・府平均を上回っていますが、中学校では低く、小学校・中学校ともに読書を全くしない児童生徒が3割前後います。学校や家庭において読書に親しませ、言語活動の充実に努めていくことが大切です。

### 【自分自身に関することについて】

小学校・中学校ともに「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合が高く、「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合は全国平均・府平均を上回り、将来の自己実現への意識を持って生活していることが伺えます。しかし、「自分で決めたことをやり遂げる」「失敗を恐れず挑戦している」「自分の思っていることや感じていることを言葉で表す」と

いった項目において、全国平均・府平均よりも低い傾向が見られます。物事を最後まであきらめず、やり遂げた後の達成感を味わいさせながら自己肯定感を養っていくことが大切と考えます。

#### 【学習への関心について】

「学習した内容について見直し、次の学習につなげることができる」や「国語の勉強は好き」などの教科への興味を問う項目において、小学校・中学校とも全国・府平均に比べて低い傾向があります。主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童生徒へ興味・関心を生かした自発的な学習が促されるように授業改善に努めていきます。

#### 【ICT利用と学習への関わりについて】

「携帯電話等の使い方について、家の人と約束したことを守っている」、「授業でコンピュータなどのICT機器を使用した」等のICTの利用と学習への関わりにある項目において、小学校・中学校とも全国・府平均に比べて高い項目が多く、特に中学校の「学校でICT機器を活用して意見交換したり調べたりする」項目は大きく全国・府平均を上回っています。児童生徒達はルールを守りながら、学習へのICT機器活用ができていることがうかがえます。今後も授業改善に努めICT機器の効果的な活用をしていきます。

### 4 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策

#### 【全般的な方策】

- 学習指導要領の確実な実施に向けて、各校で工夫しながら教育課程を編成し、分かりやすく楽しい授業、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を更に進めていきます。また、情報通信ネットワークやタブレット端末等のICTを積極的に活用した、指導方法の改善工夫についても進めてまいります。
- 「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により「個に応じた指導」の充実を図るとともに、子どもたち一人一人に個別最適化された創造性を育む教育推進に向け、ネットワーク環境の整備を引き続き行い、情報通信ネットワークやコンピュータ（タブレット端末）などを用いたICT環境の充実にも努めてまいります。
- 活用する力の育成に向け、図書を活用した授業、本やインターネット（タブレット端末）を活用した調べ学習等、子どもたちの主体性や学習意欲を引き出す探究的な学習を引き続き行っていく予定です。

#### 【国語科の重点的な方策】

- 小学校では、目的に応じて必要な情報を見つける力を高めるため、読む目的を明確にし、必要な情報が資料のどの部分に書かれているかを判断したり、資料のどの部分が結びつくのかを明らかにしたりし、文章と資料の関係を捉えて読むことができるように指導してまいります。また、言語活動の充実を一層進めていくため、単元全体の学習を見通す場面や学習状況を振り返る場面を設定し、自分の考えを深めながらまとめて書く力や、根拠を持って分かりやすく説明する力を伸ばせるよう工夫してまいります。
- 中学校では、文脈における語句の意味が理解できるように、語句の意味を調べた後にその語句を使って短文を作ったり、対話や文章の中で使ったりできるように指導してまいります。また、自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返らせ、「構造と内容の把握」「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えや根拠を知ったりするように指導してまいります。

#### 【算数科・数学科の重点的な方策】

- 小学校では、数量の関係を捉えて正しく立式したり、計算結果を問題場面に振り返ったりできるようにしたり、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解できるように指導してまいります。また、図形を構成する要素などに着目し、要素の関係性や面積の求め方について筋道を立てて説明できるように指導していくとともに、数量やデータ等を多面的に捉えて考察できるように指導してまいります。
- 中学校では、2つの数量について、変化や対応の様子に着目してその関係を的確に捉える活動を重視するとともに、事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明できるように指導してまいります。また、「資料の活用」においては、資料の整理方法や代表値の意味を理解し、集団のデータの傾向を適切に分析し、まとめる活動を重視してまいります。

#### 【家庭学習等に関わって】

- 家庭学習と学力の定着には、強い相関が見られます。予習・復習、自らの課題に向けた学習などを計画立てて学習できるように、各校において引き続き、より質の高い家庭学習や自学自習の習慣化の確立に向けた取組を進めてまいります。家庭におかれましても、ご協力をお願いします。

本市教育委員会では、急激に社会が変化する時代を生きる子どもたちが、学校・家庭・地域の中で、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育み、生き生きと成長してくれることを願っています。本調査の結果だけで学力の全てを表すことはできませんが、これを一つの指標として、児童生徒一人一人の学びや生活を充実させ、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育むために、子どもたちの状況に応じて、各学校で有効に活用し、学力充実に向け一層努力してまいります。

保護者をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。